

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

なぜ古墳時代の群馬は栄えていたのか。

提出日 2024 年 8 月 26 日 (月)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1 年 4 組 24 番

氏名 藤井優風

なぜ古墳時代の群馬は栄えていたのか。

1. 研究の動機

「群馬県は古墳が多い」ということを私は社会の授業で習いました。その後、あまり古墳を見たことがないので群馬県に古墳が多いことは本当なのかと少し疑っていました。しかし、意識して見てみると、家の近くやよく通る道の近くにたくさんの古墳があるということを知りました。このことから、私はなぜ古墳時代の群馬は古墳が多かったのか。つまり、何故栄えていたのか？という疑問を持ったからです。

2. 調べること

大きな勢力が上毛野国の各地に存在できた理由として、

- ①自然環境の豊かさ
- ②大陸からの先進技術
- ③ヤマト王権との強いつながり

という点が挙げられます。

この中で、②大陸からの先進技術、③ヤマト王権との強いつながりがあるがなぜ群馬県に持つことができたのか。ということが今回の調べることです。

3. 研究方法

- ① 群馬県立博物館について下調べ

↓

- ② 博物館で①群馬県が栄えていた証拠、②当時の外国との関係等、王権の状況を調べる。

↓

- ③ 博物館で調べられなかった①、②、③「調べること」の②③を博物館で買った本で調べる。

↓

方法②③で調べきれなかったことをインターネットで調べる

群馬県立博物館はどんなところ？

国宝「群馬県綿貫観音山古墳出土品」の埴輪や金銅製馬具などの副葬品を展示していて、その他、群馬県の歴史や文化の特色について実物資料を中心に最新のデジタル技術を導入した映像や復元模型など豊富な資料を用いてわかりやすく学ぶことができます。

こどもかんらんけん



ぐんまけんりつれきしはくぶつかん

群馬県立歴史博物館
のチケット

4. 答えの予想

① なぜ大陸からの先進技術が群馬へ伝わったのか。

(予想)

群馬県は海はないが日本の中心に位置しています。なので、ヤマト王権からだけでなく、他の地域から大陸の先進技術が伝わりやすかったという理由があるのではないかと予想しました。

② なぜ群馬県がヤマト王権と強いつながりを持てたのか。

(予想)

ここも地形が関係していると考えます。群馬県は海がないので津波の危険性もない。利根川で水源が確保できる。

また、山もあるので森の恵みも得られるので、とても生きやすい土地であった。だから多くの豪族を群馬へおくり、群馬が首都候補に上がっていたのではないかと予想しました。

予想をまとめると...

①、②のどちらも群馬の地形や自然に関係しているのではないかと考えています。

5. 研究結果

① 群馬県が栄えていた証拠

まず群馬県が栄えた証拠からヤマト王権とどのような関係だったのかを読みとこうと考えました。

証拠① 三角緑神獣鏡 (さんかくびちしんじゅうきょう)

三角緑神獣鏡

三角緑神獣鏡、て？… 緑の断面が三角をなし、神像や獣像の表現をもつ中国の銅鏡。

『魏志倭人伝』に登場する魏の皇帝が邪馬大国の卑呼呼に与えた銅鏡百枚、をこの鏡とする説がある。ヤマト王権が魏王朝から独占的に入手し、同盟関係を結んだ地方の有力者に配布したとの説も出されている。



※ 銅鏡は関東で見つかっている18面のうち、

13面は群馬県で発見されて、大型前方後円墳に加え、中・小の円墳にも副葬されています。群馬県地域での出土数は関東地方以北では突出しています。この地域の勢力が、古墳時代前期から近畿地方との強い結びつきがあったこと、群馬県が栄えていたということがわかります。 ※群馬県立博物館より

証拠② 突起付冑 (とつきつきかぶと)

突起付冑、て？… 日本で4つしか見つからない冑。この突起複元図を見ると冠のような役割を担っており、身分を表現している。

墳兵出土の埴輪にもこの冑と思われる表現が認められる。

近年朝鮮半島や福島県で類例が発見されている。



朝鮮半島というのは、当時の加耶(かや)のことで、東日本と加耶は交流していたということがわかります。

証拠③ 多くの埴輪



←鉄冑をかぶっていると
されている甲冑をまとう
武人

円筒埴輪 →
(えんとうはにわ)



群馬県には350以上もの埴輪が発見されている。埴輪が多い＝古墳が多い。

よって有力者が多かった地域であるといえます。

また、群馬県に有力者の古墳が多かったという証拠に、円筒埴輪が多いということが挙げられます。円筒埴輪は靈魂の宿る領域である古墳を装飾するため、墳丘各所にずらりと列をなし樹立されていました。円筒埴輪が多いということはそれほどの有力者が群馬県に存在していたということになり、群馬県が栄えた証拠です。

②、①で調べたことから、ヤマト王権の政治の状況、群馬との関係をよみとく

まず、証拠1から、ヤマト王権が有力者に渡したといわれている銅鏡が群馬県で3面も見つかっています。証拠2、3からは群馬県に有力者が他の地域より多く存在していたということがわかります。

①「なぜ大陸から先進技術が群馬へ伝わったのか」の考え

群馬県は日本一大きい川「利根川」が流れています。



①実際の利根川の位置

②当時の船の形

古墳時代では②のような船が使われるようになりました。
なので、物を売買しやすくなったと考えられます。

物を売、買い易くなったということは、当然他の地域の物も入ってくる。有力者に与えられる銅鏡などは別として、

朝鮮から入ってくる品は

ヤマト王権 → どこかのムラ → 群馬

といくつか経由して群馬へ来たのではないかと考えました。



また、群馬県には山があります。

山は森の恵みを得られる場所。

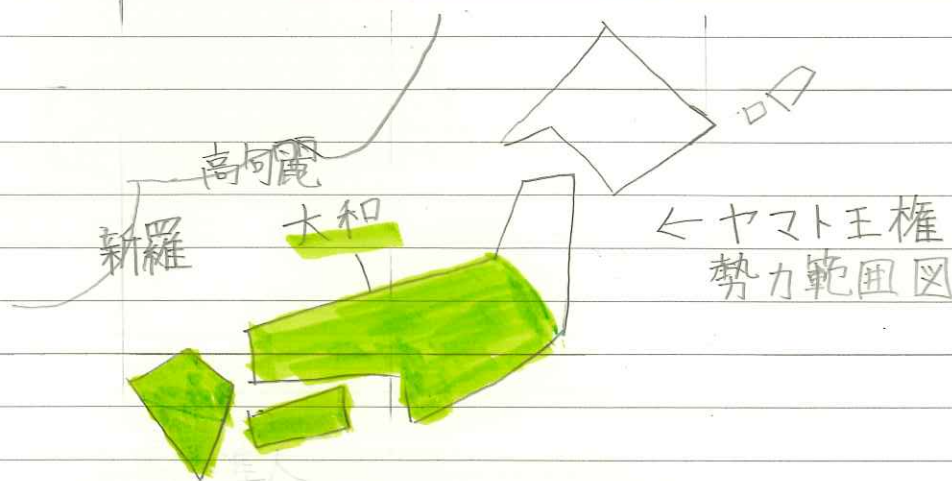
食料の山菜や果物はもちろん、木材も得ることが出来ます。よって、

先進技術を使うには、その対象材料が必要です。例えば、須恵器であれば、粘土が必要です。山も川もあった群馬県は先進技術を使って作るものの

材料が手に入りやすかったから、

多くの先進技術が群馬県へ伝わり、来たのではないかと考えられます。

②「なぜヤマト王権と強いつながりがあったのか」の考え



上の図を見てわかるように、ヤマト王権は九州地方から関東地方まで勢力を拡大していきました。他にも古墳がたくさんある地域もあります。しかし、なぜ銅鏡など有力者が持つものを群馬に送ったのでしょうか。それほど強い結びつきがあるとしたがたいません。しかし、なぜそんな強い結びつきがあったのか。考える理由として①でも説明しましたが豊かな自然というものが挙げられます。

また、私は2つの仮説を立てました。

一つ目は邪馬台国が群馬にあったのではないかと。

争いか何らかの理由で金銅鏡を持ち、近畿地方へ都を移したということであれば、古墳がたくさんあることも不思議ではありません。

二つ目は群馬へ都を移そうとしていたのではないかと。

群馬県には豊かな自然がたくさんあるので、都を移して先進技術を使用して新しい物を作りやすくするために群馬に有力者をおいだのではないかと考えました。

しかし、群馬を都にさせようとするならその後の飛鳥時代、奈良時代で動きがあると思うので、①の説が有効だと考えています。

6. 研究のまとめ

①「群馬県が栄えた証拠」から

有力者が与えられる三角縁神兽大像が関東地方の中で群馬県が一番出土したこと、植輪がたくさん出てきたこと、朝鮮半島の交流の証が出てきたことから、群馬県にはとても身分が高い有力者がいた。また、古墳の多さから身分が中〜低くらいの有力者も群馬県内にいたということがいわかった。

②「なぜ大陸から先進技術が群馬へ伝わったのか」から

群馬県は川があるため、船で他の地域と交流しやすかった。そして山もあるので、先進技術を使って作る物の材料を得やすかったという利点があった。また、他の関東地方へも先進技術を発信するために日本の中心にある群馬県へ技術が伝わったのかもしれない。

③「なぜヤマト王権と強いつながりがあったのか」から

豊かな自然があるということも挙げられると思うが、邪馬台国が群馬県にあったとも考えた。外国と交流しやすくする等何かの理由でヤマト王権が近畿地方に移ったとすれば「ワカタケル大王」とある鉄剣が埼玉県にもある理由になると考えた。

「群馬を都にする」というのは飛鳥時代以降に動きがなかったため可能性は低いと考える。

7. 結論

～なぜ古墳時代の群馬は栄えていたのか～

古墳時代の群馬が栄えていた理由は、

- ①先進技術を大陸から学んでいた。
- ②ヤマト王権との強いつながりであるが、それはどちらも群馬の自然や特色が関係している。

副葬品



群馬の古墳から 様々な副葬品が
出たことから、群馬台国は群馬にあったのではないかと
考える。

8. 感想

私は正直 社会の歴史が好きではありませんでした。

「歴史を知る必要はあるのか」と。

しかし、今回東国文化について調べてみると、歴史、て
面白い!と思うようになりました。副葬品から当時のファッション、
生活ぶりを想像することはとても楽しいと気づきました。

今回は東国文化の自由研究だったので古墳時代を中心
にしか調べませんでした。今度は鎌倉時代を調べて
みたいです。また、外国の歴史「世界史」でウシオパトラに
ついて知りたい、という探求欲がでてきました。

自分が興味を持ったことは調べつくして自分の知識にし、
将来への生き方の糧にしていきたいと思います。

9 参考

◦ 群馬県立歴史博物館

◦ 東国文化副読本 ～古代ぐんまを探検しよう～
2023年10月改訂版 出版 群馬県

◦ 群馬県立歴史博物館 常設展示図鑑

～より展示を楽しく読み解くため、学芸員・解説員の料を集めたガイドブック～
出版 群馬県立歴史博物館

◦ 綿貫観音山古墳ガイドブック

令和6年3月28日改訂 出版 群馬県立歴史博物館

◦ <https://youtu.be/1.geCaf7QK.S8A?si=USPI4KE4Q225H.1+1>
P.3の胃の説明◦ <https://search.app/qNa9tEFMUSogovVu9>
P.4の埴輪について「もっと埴輪や古墳について学んでみよう!」◦ <https://images.app.goo.gl/Qe5CfgKm6vgJRXJ9A>
P.5の左上の図「利根川のあらまし」◦ <https://search.app/wTjp9fPezgNJ4oHa9>
P.5の左下の図「群馬の山地図」◦ <https://search.app/wTjp9fPezgNJ4oHa9>
P.6の上の図「ヤマト王権におお系統-国家の成立」参考